

令和3年
全国
一級河川の水質現況

Recent conditions of water quality of class A rivers in Japan

2021

令和3年水質調査結果
感覚的な水質指標による調査
水質事故等の状況

特集

狩野川の魅力を活かす

水質改善と観光振興

アヤセガワ
綾瀬川 [関東地方]

「清流」から生まれた名産品

サルガワ
沙流川 [北海道地方]

水質だより

キモツキガワ
肝属川 [九州地方]



CONTENTS



科学的調査

- 03 DATA 水質が最も良好な河川 2021
04 DATA 水質が最も良好な河川 2011-2021
05 DATA 過去 10 年間の水質改善状況
06 DATA 環境基準（BOD 等）の満足状況



感覚的調査

- 08 感覚的な水質指標による調査
08 やまがわ水生生物調査
09 生き物による重信川の水質調査
10 くるべ水の少年団による調査



水質事故調査

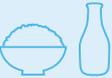
- 11 水質事故等の状況
11 DATA 水質事故等の状況



- 13 カノガワ
狩野川の魅力を活かす



- 15 「水質改善と環境振興」  [関東地方] アヤセガワ
綾瀬川

- 16 「清流から生まれた名産品」  [北海道地方] サルガワ
沙流川

- 17 「水質だより」  [九州地方] キモツキガワ
肝属川



ライシャケオン!

- 18 水難事故防止



科学的調査

令和3年水質調査結果

公害問題が顕在化してきた昭和40年代以降、水質汚濁が進み、「汚い、臭い、遊べない」といわれる河川が全国に多くありました。国土交通省が河川の水質について、年単位(1月～12月)でのとりまとめを始めた昭和46年当時、BOD平均値が5.0mg/ℓを超え、水質改善が急務であった地点は、一級河川の全調査地点の27%を占めていました。

しかし、このような一級河川の水質も、これまでの排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により徐々に良くなっています。例えば、昭和40年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚れた河川でした。昭和50年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が良くなり、近年では、大量のアユが毎年遡上するまでになっています。また、綾瀬川や大和川は、昭和40年代の都市化の進展に伴う水質汚濁が著しく、BOD値が30mg/ℓを超えていましたが、水質改善の取組みにより確実に良くなりました。特に大和川では、令和3年の代表地点のBOD75%値が1.5mg/ℓとなり、アユの遡上も確認されるようになっています。

こうした水質改善の背景には、排水規制や下水道整備のみならず、各地域や家庭での生活排水の汚れを減らす取組みや、流域でのクリーン活動等の啓発活動といった、流域の人々の様々な活動があります。これからも水質を維持・改善していくためには、このような各地域における努力を持続・発展させることが重要です。



科学的調査

THE BEST
12 河川

水質が最も良好な河川 2021

令和3年の平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川は以下のとおりです。

BOD 値による河川の水質状況（水質が最も良好な河川）

地方名	河川名			調査地点の都道府県名
北海道	後志利別川	シリベントシベツガワ	後志利別川水系	北海道
北海道	尻別川	シリベツガワ	尻別川水系	北海道
東北	荒川	アラカワ	阿武隈川水系	福島県
北陸	黒部川	クロベガワ	黒部川水系	富山県
中部	狩野川	カノガワ	狩野川水系	静岡県
近畿	熊野川	クマノガワ	新宮川水系	和歌山県
近畿	北川	キタガワ	北川水系	福井県
中国	天神川	テンジンガワ	天神川水系	鳥取県
中国	小鴨川	オガモガワ	天神川水系	鳥取県
九州	球磨川	クマガワ	球磨川水系	熊本県
九州	川辺川	カワベガワ	球磨川水系	熊本県
九州	五ヶ瀬川	ゴカセガワ	五ヶ瀬川水系	宮崎県

【「水質が最も良好な河川」の定義】

対象河川である 160 河川のうち、以下の両方を満たす河川。

- 対象河川の各調査地点の BOD 年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ※1
- 対象河川の各調査地点の BOD75% 値※2について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ

※1：環境省の定める BOD の報告下限値（0.5 mg/ℓ）

※2：測定データを値が小さい（水質が良好）方から並べ、0.75 × データ数番目（整数ではない場合は切り上げ）の値（例えば、BOD を毎月 1 回測定していた場合、水質の良い方（値の小さい方）から数えて 0.75 × 12 = 9 番目の値が 75% 値となります。）

<対象河川>

- 一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川
- 一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が 2 以上ある河川

※湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。



科学的調査

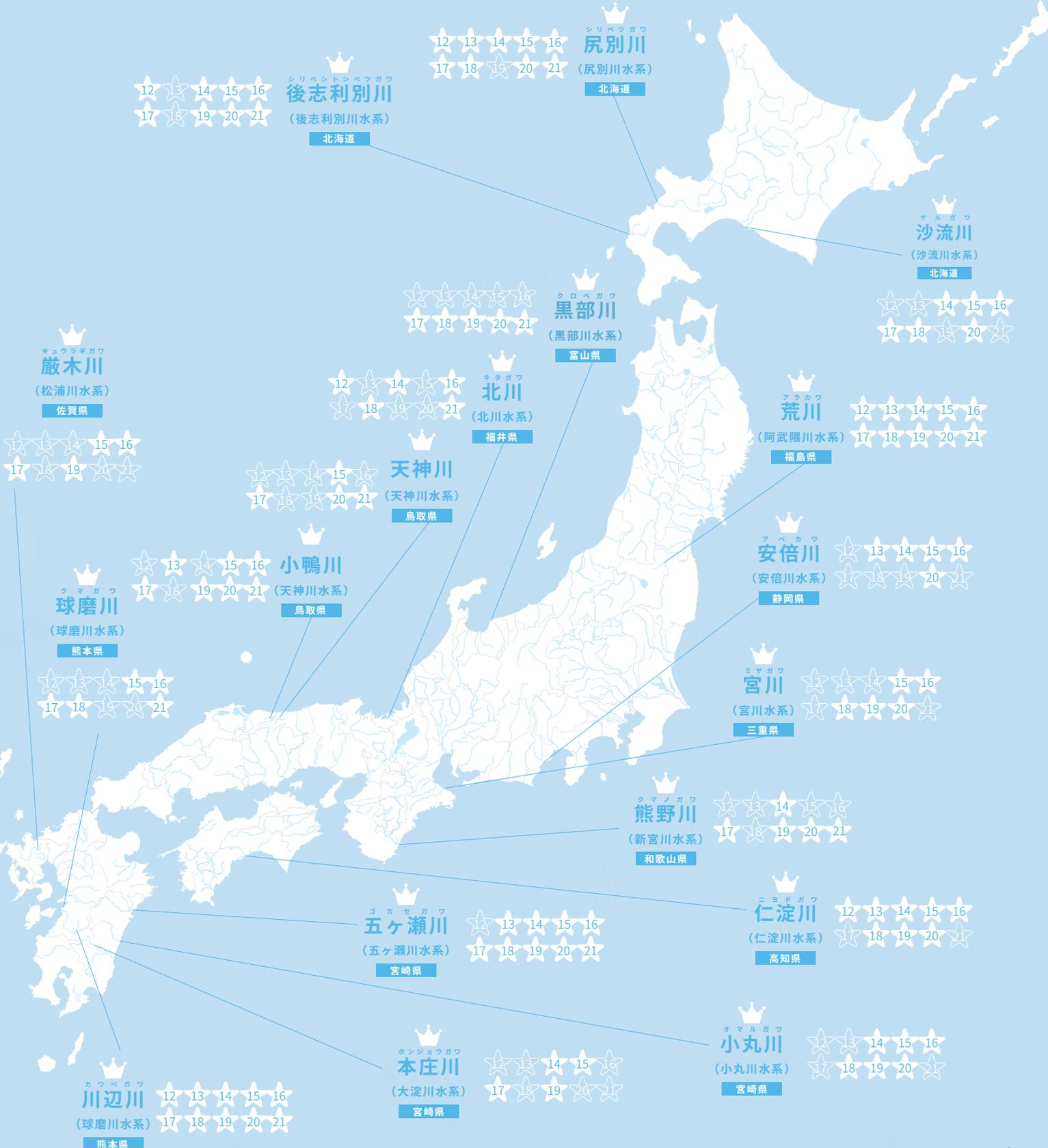
水質が最も良好な河川

2012 - 2021

星印：「水質が最も良好な河川」となった年
(西暦下2桁)

平成 24- 令和 3 年水質調査結果

2012-2021 年 (平成 24- 令和 3 年) の 10 年で、
4 回以上「水質が最も良好な河川」となった河川 (18 河川) を紹介します





科学的調査

TOP
5

過去 10 年間の水質改善状況

過去 10 年間に BOD 値が大幅に改善されている地点は以下のとおりです。

BOD 平均値の改善幅による過去 10 年間の水質改善状況

順位	地方名/地点名 (水系名河川名)	平成 23 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	令和 3 年 BOD 年間 平均値 (mg/ℓ)	水質改善幅 (mg/ℓ)
1	近畿 ^{トクラ} ／利倉 (淀川水系猪名川)	7.9	2.3	5.6
2	関東 ^{ウンガ} ／運河 ^{ゴウリュウマエ} (合流前) (利根川水系利根運河)	8.0	4.3	3.7
3	関東 ^{ウンガ} ／運河橋 ^{パン} (利根川水系利根運河)	7.1	3.6	3.5
4	近畿 ^{イチダガワカコウ} ／市田川河口 (新宮川水系市田川)	3.9	1.3	2.6
5	関東 ^{ササメバン} ／笹目橋 (荒川水系荒川)	4.0	1.6	2.4

令和 3 年の地点毎の年間の平均的な水質 (BOD 値) と、平成 23 年の地点毎の年間の平均的な水質 (BOD 値) から、10 年間の直轄管理区間の水質改善幅による地点の水質改善状況を比較すると、上記上位 5 地点で大幅な水質改善が進んでいます。

また、上記上位 5 地点以外にも、様々な取組み等により、全国的にきれいな川、生物が生息しやすい川などをめざして水質や水環境の改善が多面的に取り組まれています。

こうした水質を改善する取組みを地域づくりや観光振興とあわせて実施している河川として、[綾瀬川\(関東地方\) \(P.15\)](#)や[肝属川\(九州地方\) \(P.17\)](#)の事例を掲載しています。



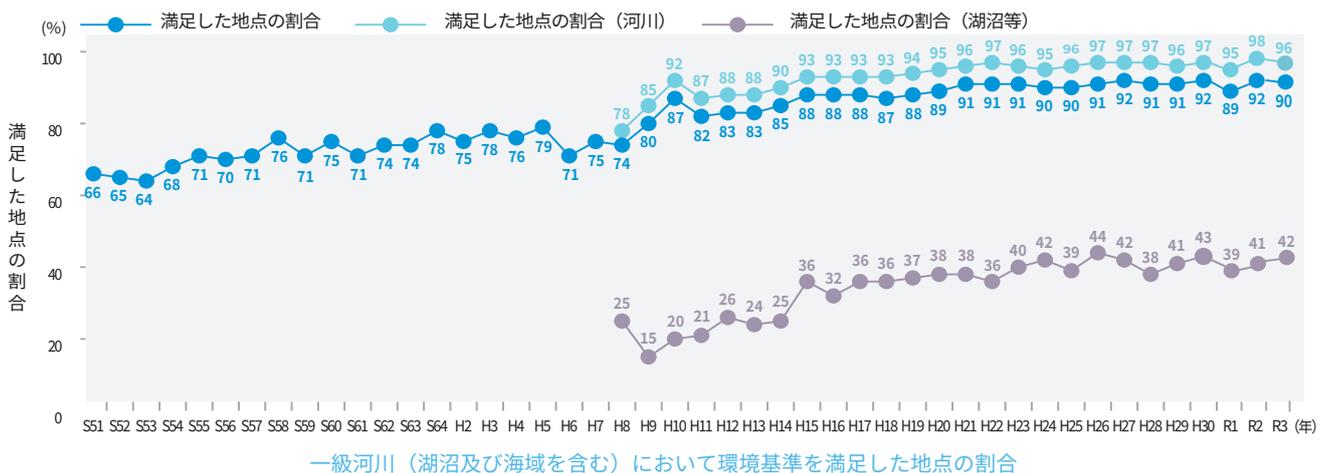
科学的調査

90%

環境基準（BOD等）の満足状況

BOD※1（またはCOD※2）値が環境基準を満足した地点の割合は90%でした。

【生活環境の保全に関する環境基準】



令和3年に、一級河川（湖沼及び海域を含む。）の直轄管理区間において、生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD（生物化学的酸素要求量）または、COD（化学的酸素要求量）の環境基準を満足した地点の割合は90%（896地点/991地点）で、依然として高い割合を維持しています。

なお、令和3年にBOD（またはCOD）値が環境基準を満足した地点の割合について、地点の種類別に見ると、河川のみでは96%（853地点/889地点）、湖沼等（海域含む）※3では42%（43地点/102地点）でした。

※1 BOD（生物化学的酸素要求量）： 河川の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の汚れ（有機物）が微生物により分解されるときに消費される酸素量のこと、BODの値が大きければ水が汚れていることを表す。

※2 COD（化学的酸素要求量）： 湖沼や海域の水質の汚濁状況を測る代表的な指標である。水中の有機物を酸化剤で酸化されるときに消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、CODの値が大きければ水が汚れていることを表す。

※3 河川・湖沼別の環境基準を満足した地点の割合は平成8年より整理（平成26年以降は海域も含む）

【ダイオキシン類】

令和3年度における、ダイオキシン類が水質環境基準を満足した地点の割合は96%（204地点/213地点）でした。

【人の健康の保護に関する環境基準】

令和3年における、直轄管理区間の健康項目全体の環境基準を満足した割合は99%（前年99%）となっており、ほとんどの地点で環境基準を満足しました。



感覚的調査

感覚的な水質指標による 調査

国土交通省では、河川を BOD などの環境基準だけでなく多様な視点で評価するために、調査の一部を住民と河川管理者との協働で実施しています。普段親しんでいる身近な川で、ゴミの量や水のおいなどを実際に体感することで評価しています。

河川を BOD などの環境基準だけでなく多様な視点で評価するための指標について検討し、「今後の河川水質管理の指標について(案)」を平成 17 年 3 月にとりまとめました^{注1)}。このうち、「感覚的な水質指標^{注2)}」による調査では、調査の一部を住民と河川管理者との協働により平成 17 年から実施しており、普段親しんでいる身近な川で、ゴミの量や水のおいなどを実際に体感することで評価しています^{注3)}。住民との協働による水質調査は、住民の川に対する意識の向上(情報提供を含む)、河川水質の情報収集、住民の主体的な行動を引き出すことなどにより、川の改善を目指すことをねらいとしています。

注1 平成 21 年 3 月に一部改訂し、平成 21 年度の調査より適用しています。

注2 「今後の河川水質管理の指標」のうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」に関する調査では、ゴミの量や水のおいなどを実際に体感することで評価する項目が含まれていることから、「感覚的な水質指標」として紹介しています。

注3 評価項目ごとに A～D ランクの 4 段階の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとし、1 年間の調査時の総合評価ランクのうち最頻出ランクを、その地点における年間の総合評価ランクとします。最頻出ランクが 2 つ以上ある場合は、低い方のランクを年間の総合評価ランクとします。

「感覚的な水質指標による調査」は、これまで多くの水系で実施され、子供たちをはじめ、多くの方々が参加しています。

令和 2 年および 3 年は、新型コロナウイルス感染防止のため、全国的に調査中止あるいは規模縮小を余儀なくされていますが、長年調査を実施する中で、河川ごとに調査内容や方法も多様化しています。

ここでは、特徴的な調査のいくつかをご紹介します。



生き物講座で楽しく学習

やまとがわ水生生物調査

大和川水系 やまとがわ 大和川 (大阪府)



大和川河川事務所では、大和川に棲む生き物の観察を行うことで、大和川の水環境や水質改善の必要性について学ぶ「やまとがわ水生生物調査」を実施しています。

調査は、公募により小学校に参加いただき、専門家を講師に招いて、毎年、大和川の数地点で実施しています。

この中で、「水のきれいさ調査」も行い、アンケート形式でごみの量や水のおいなどについて答えてもらいます。

調査のあとは講師の先生の「生き物講座」が開かれ、クイズ形式で楽しく生き物の話を学びます。

この取り組みは、楽しみながら川に親しめることから、子どもへの水環境教育の導入プログラムとしても注目されています。



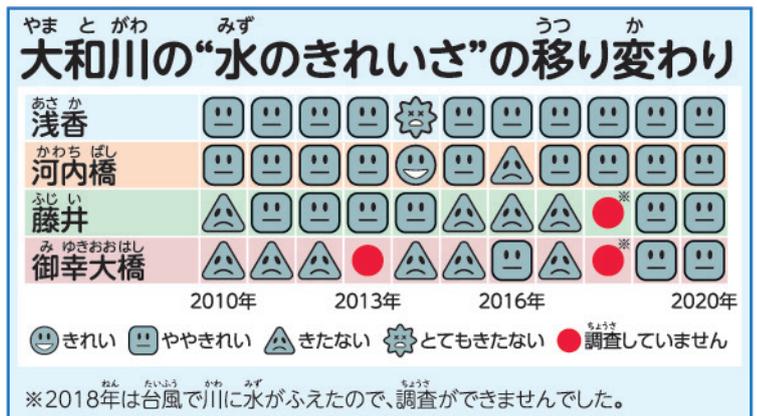
水生生物調査
投網を使った生き物の採取にも挑戦。



水のきれいさ調査
「水のおいはどうでしたか？」などを答えてもらいます。



生き物講座では、捕まえた生き物について解説してもらいます。



大和川では、流域の小・中学校にチラシを配布し、調査に参加する学校を募集しています。毎年、多くの応募があり、継続した調査ができています。

調査は、4地点を対象に行い、結果をホームページで公表しています。

子供たちは、大和川をきれいにする大切さについて、理解を深めています。

(写真：近畿地方整備局 大和川河川事務所)



調査の成果をみんなで発表

生き物による重信川の水質調査

重信川水系 しげのぶがわ 「重信川」 (愛媛県)

松山河川国道事務所では、重信川の自然再生に取り組んでいる「重信川の自然をはぐくむ会」(学識者、NPO法人、住民、行政で構成)の協力を得て、小中学校と水生生物調査や水質調査を行っています。

調査地点の1つでは、中学1年生全クラスが参加しています。調査には近隣の大学生も参加し、水生生物の採取や同定方法を教えてくれます。

水質調査のほかに、出前講座もあり、中学生の皆さんは、1年を通じて重信川について積極的に学んでいます。そして、学習の成果は、重信川の自然環境保護などを考える「重信川フォーラム」において、高校生や大学生も発表する中で発表し、好評を得ています。



水生生物調査

地元で生物を学ぶ大学生のみなさんが、小中学生による調査をサポートすることで、理解も楽しさもアップします。



調査では、透視度測定や簡易水質測定(pHなど)を実施しました。調査結果から、重信川が水生生物にとって「住みやすい環境にある川」であるのか評価しました。



中学生の皆さんは、重信川の自然再生を考える「重信川フォーラム」において、調査結果をもとに重信川の水環境について発表しています。

(写真：四国地方整備局 松山河川国道事務所)



感覚的調査

川の上中下流を調査

くろべ水の少年団による調査

黒部川水系 くろべがわ \\ 黒部川 // (富山県)

市民団体である「くろべ水の少年団」が主催し、黒部河川事務所や富山県が協力して調査を実施しています。

くろべ水の少年団は、「水に親しみ」「水を愛する」「水を大切にする」心豊かな子どもを育てることを目的として平成4年から活動しており、団員は黒部市内全小学校から募集によって集まった小学4・5・6年生で構成し、活動しています。

令和3年度は、7月24日の結団式から始まり、7月31日に下流域、8月9日に中流域の水生生物調査を実施しました。また黒部川を実際に「見る、感じる、触れる」ことで、黒部川の快適さを調査しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、上流域の調査は中止となってしまいましたが、限られた活動の中で黒部川の水について理解を深めることができました。

子どもたちは、活動を通じて、家や学校ではできない貴重な体験を楽しんでいます。



下流域の調査（左）と中流域の調査（右）の様子

調査地点によって、水の流れや石の大きさなど、川の様子も変わってきます。調査では、水生生物調査に加えて、流れの速さや水温、簡易水質調査や透視度の測定なども実施しています。



川で採取した水生昆虫を、科学館に戻って観察し、種類を調べます。

透視度の測定

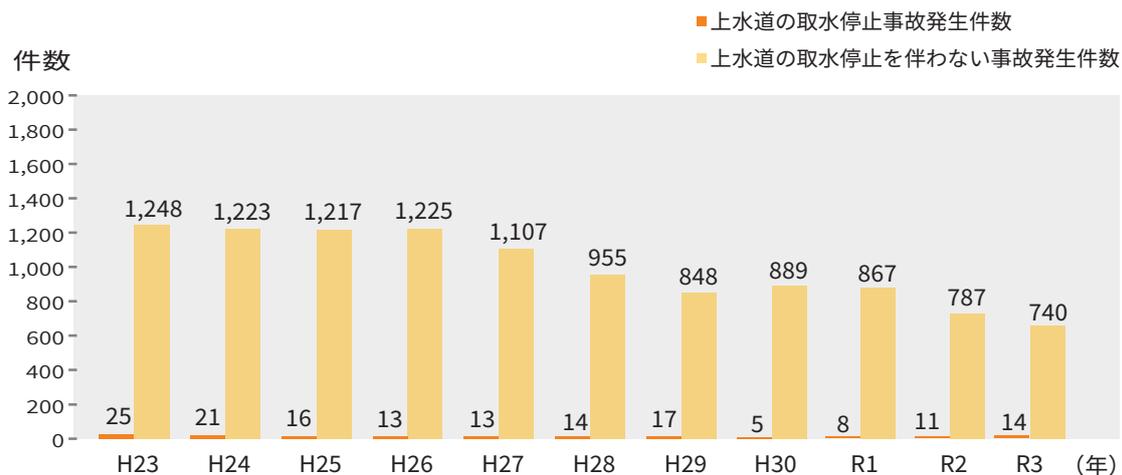
(写真：北陸地方整備局 黒部河川事務所)

水質事故等の状況

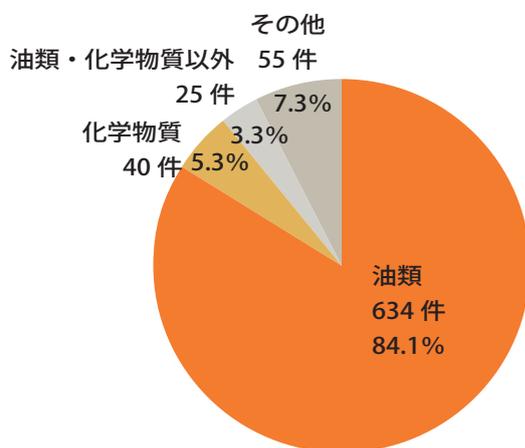
令和3年の水質事故の発生件数は754件で、長期的には減少傾向にあります。

令和3年は令和2年と比べ44件減少し、水質事故の発生件数は、減少傾向にあります。事故の内容を原因物質別にみると、油類の流出が全体の約8割を占めています。

一級水系においては、水質事故発生時には、河川管理者、利水者、その他関係行政機関等により構成される「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて、速やかに情報の収集、通報・連絡を行うとともに、関係機関と連携のもとにオイルフェンスを設置するなど、被害の拡大防止に努めています。



水質事故発生件数と上水道の取水停止事故発生件数の推移



合計 754件（自然現象13件を除く）

水質事故の内容（原因物質別）



不法投棄による油流出事故

（写真：関東地方整備局 江戸川河川事務所）

水質事故を防ぐために

水質事故の多くは油類や化学物質によるものであり、工場や農家などで使用される機械の故障・操作ミスや、交通事故、ごみの不法投棄などによって発生します。

ひとたび油類や化学物質が河川へ流出してしまうと、魚などの水生生物に影響を与えるだけでなく、規模によっては河川からの水道用水等の取水が制限されるなど、広範囲にわたって市民生活に重大な影響を及ぼすおそれがあります。

そのため水質事故発生時には、「水質汚濁防止連絡協議会」を通じて速やかに通報・連絡・情報収集を行うとともに被害の拡大を防止できるよう、日頃より関係機関と共同で訓練等を実施しています。

事例

中国地方整備局での事例

江の川の上流域（広島県）の各市・町、広島県、国土交通省、消防、警察等の関係機関でつくる江の川（上流）水質汚濁防止連絡協議会では、毎年、油類の取扱いが多くなる冬季前に、水質事故対応訓練・講習会を実施しています。

江の川水系上流域での水質事故対応に携わる関係機関の担当者が集まり、水質事故対応に関する知識の向上、初動対応の迅速化を目的に、油類の特性や処理方法の講習、ロープ結びやオイルフェンスの張り方の対応訓練及び講習を行っています。



ロープの結び方訓練の様子（写真：三次河川国道事務所）

四国地方整備局での事例

肱川水系水質汚濁防止連絡協議会では、関係機関合同で水質事故対策訓練として、油処理材の使用方法講習会を毎年実施し、水質事故に備えています。

令和2年には、専門家を招き、肱川流域の関係機関（16団体）が参加し支川における油流出事故を想定した油回収訓練を行うとともに、オイルフェンスや各種油処理材の使用方法等の講習を行い、水質事故の発生に備えて訓練を実施しています。



対策技術訓練の状況（河川内での油回収訓練）

（写真：大洲河川国道事務所）

狩野川の魅力を活かす

特集

【狩野川水系狩野川（静岡県）】

令和2年にはじめて「水質が最も良好な河川」となった狩野川。湧水を水源とし、清冽な河川として広く知られている支川柿田川を含め、きれいな水を活かした取り組みが盛んになっています。

【写真提供：伊豆ゲートウェイ函南 指定管理者（株）JM】



伊豆半島を北流する「狩野川」

狩野川は、静岡県の伊豆半島を流れる幹川流路延長46km、流域面積852km²の一級河川です。天城山系を水源とし、大小の支川を合わせながら、太平洋側では稀な北向きの流れを有し、田方平野から駿河湾に注ぎます。

流域には多様な産業が発展し、中下流域では製糸、機械、食料品等の工場や都市が広がっています。高度経済成長期の昭和40年代は水質も悪化しましたが、その後浄化技術の向上や下水道整備の進捗等により改善が進み、水系内の環境基準点におけるBOD75%値は、平成17年（2005年）以降、ほぼ全ての地点で環境基準値を達成しました。さらに、令和2年には狩野川本流が全国における「水質が最も良好な河川」の一つになりました。

自然の恵み

狩野川の上流域は、年間3,000mm（日本の年間平均雨量1,718mm）もの雨が降ります。山体にしみ込んだ雨水は湧水となり川に流れ込みますが、この豊富な水を利用したわさびの栽培が盛んです。「畳石式」と呼ばれる棚田状のわさび田では、湧水を適度にかけて流すことで、わさびの安定した生産を可能にしました。特に、棚田1,500枚にもおよぶ「筏場のわさび田」は、石積み美しい壮大なわさび田です。

また、狩野川は、アユの友釣り発祥の地とも言われており、初夏になると「清流の女王」を求めて多くの釣り客が訪れます。



筏場のわさび田

富士山の恵み

狩野川の中下流域は、富士山等を水源とする湧水にも恵まれています。特に支川の柿田川は、それ自体が国指定天然記念物に指定されている、日本最大級の湧水量を誇る河川です。

周辺の市街化が進む中で、地域の人々による環境保全活動などにより、豊かな自然が残されています。ミシマバイカモなど貴重な生物が生息・生育し、地元小・中学校の環境学習の場としても活用されています。



アユの友釣り発祥の地「狩野川」



柿田川の湧水



ミシマバイカモ

狩野川を活かしたにぎわい・まちづくり

きれいで豊かな水が流れる狩野川は、人々を魅了し、まちづくりにも活かされています。平成 25 年に沼津市の「かのがわ風のテラス」が整備され、平成 31 年には函南町で川の駅「伊豆ゲートウェイ函南（かなみ）」が開業しました。さらに、伊豆の国市でも「伊豆の国市かわまちづくり計画」に基づき、新たな整備が進められています。

狩野川の魅力を配信する「かのがわ風のテラス」

「かのがわ風のテラス」は、沼津市中心部を流れる狩野川右岸・上土町周辺に整備された階段堤帯を示す愛称です。駿河湾を吹き抜けてくる風を感じられるテラスのような場所にしようと、あげつち商店街をはじめ、沼津市・国土交通省が協力してにぎわいづくりを行っています。



水辺の演奏会

令和 3 年には、実証実験として「街なかで取り戻す 私らしい時間」をテーマに、川を下るツアーやヨガ教室などを開催しており、狩野川の新たな活用が始まっています。

写真提供：沼津市



水辺のステージ

防災機能をもつ川の駅「伊豆ゲートウェイ函南^{かなみ}」

川の駅「伊豆ゲートウェイ函南」は、万一の災害時に災害復旧の拠点となる防災ステーションとして整備されました。普段は、水辺を活かした「憩いの場」として、富士山を眺めながら、カヤックやサイクリング等を楽しんだり、ドッグラン、キャンプなどの屋外活動を満喫できます。隣接する道の駅とともに、様々なイベントが開催されており、多くの人で賑わっています。

写真提供：指定管理者（株）JM



川の駅 QR コード



水防多目的センター



カヤック



ドッグフェス



イベント

次世代に受け継ぐ狩野川との暮らし

自然の恵みをもたらし、にぎわいの場となる狩野川は、自然災害の脅威にもなります。昭和 33 年 9 月に発生した狩野川台風では、流域において死者・行方不明 853 名という甚大な被害を受けました。その後、狩野川放水路の整備などの対策が進められ、洪水時の被害軽減が図られてきました。しかし、狩野川を活かした取組みを進めるうえで、災害・安全への備えは依然として重要です。



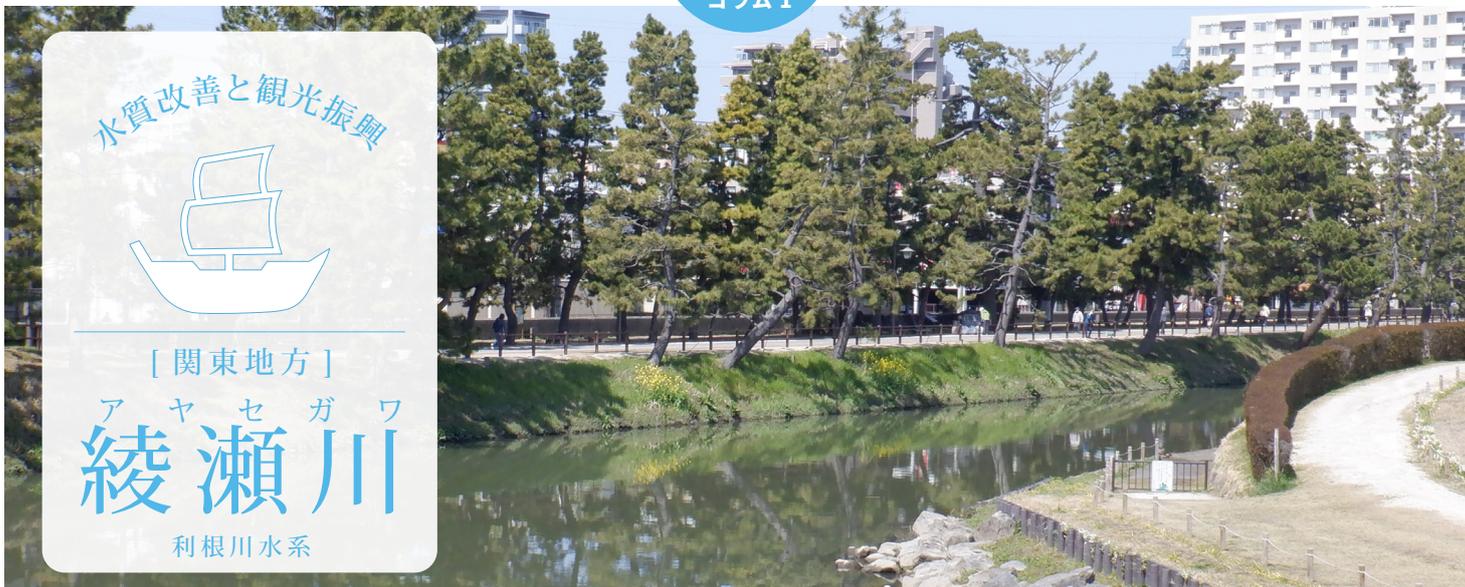
防災・河川環境教育に関する授業の様子

平成 28 年より、国土交通省・行政機関が連携し、狩野川沿川 7 市町において、「防災・河川環境教育」を実施しています。学校の授業をとおして学んだ知識を子どもから家庭へ、さらには地域へ発展させていくことで、地域全体の防災意識を高める効果が期待できます。

狩野川放水路



狩野川放水路は、増水した狩野川の水を途中から分流し、直接海へと流すための人工水路です。



水質改善と観光振興

【関東地方】
アヤセガワ
綾瀬川
利根川水系

草加松原と綾瀬川 写真提供：江戸川河川事務所

汚れていた川

綾瀬川は、埼玉県から東京都の市街地を流れ、中川に合流して東京湾に注ぐ一級河川です。首都圏のベッドタウンを貫流する代表的な川のひとつといえるでしょう。

綾瀬川流域は、昭和40年代の高度経済成長期に急速な都市化が進み、家庭や工場からの排水によって川の水が汚れ、悪臭やゴミがたどようなど社会問題となり、綾瀬川は、「日本一汚い川」とよばれていました。

そこで、流域住民と国と自治体が一緒になって、綾瀬川流域の水環境の改善を目指すとりくみ（綾瀬川清流ルネッサンスⅠ、綾瀬川清流ルネッサンスⅡ）が行われ、下水道の整備、合併処理浄化槽の普及・管理、工場排水の規制、河川浄化施設、川底の泥の除去、自然の浄化力の回復、浄化用水の導入、川の清掃、水質調査など、様々な対策が実施されました。

すっかりきれいになった綾瀬川

長年の努力により、綾瀬川の水質は最悪であった昭和46年のBOD値100(mg/L)に対して、令和3年度には2.8(mg/L)までと劇的な改善がされました。

また、流域自治体（足立区）がきれいになった綾瀬川を知ってもらうために令和3年に開催したパネル展も反響を呼びました。

綾瀬川を活かした取り組みへ

埼玉県草加市の中心部を流れる綾瀬川沿いに、約1.5kmの松並木があります。江戸時代から日光街道の名所「草加松原」として知られてきた場所で、当時は綾瀬川に河岸が造られ、舟運によって江戸との物資の輸送が盛んに行われていました。

この歴史的背景を踏まえ、平成28年から木造和舟による体験型観光事業が市民活動団体「なかね和舟の会」と市の連携のもと実施されています。昔ながらの櫓漕ぎでゆったりと進む舟上では当時の風情が味わえ、草加松原を川面から眺めることができます。



体験型観光事業「和舟の舟行」 写真提供：草加市



1973年（昭和48年）頃 写真提供：草加市
草加市（綾瀬川）
綾瀬川に流入する水路からの生活排水（洗濯水）とみられる泡水



2022年（令和4年3月）頃 写真提供：江戸川河川事務所



「清流」から生まれた
名産品

[北海道地方]

サルガワ
沙流川

沙流川水系



紫雲古津川橋から望む沙流川

沙流川で育まれる伝統文化と地域産業

アイヌ文化と沙流川

沙流川は、北海道中央南部にある日高山脈を源とし、ほぼ南西方向に流れ太平洋にそそぐ、延長 104km の美しい川です。沙流川とアイヌの人々との関係は深く、チプサンケ（舟おろしの儀式）、口承文芸、アイヌ古式舞踊などをはじめ、その伝統・文化は今日の流域社会に深く結びついています。

日高地方はサラブレッドの産地としても有名ですが、流域には多くの生産牧場や育成牧場があり、沙流川の高水敷も牧草放牧地として広く利用されています。



チプサンケ

アイヌの方々の伝統的な儀式として、毎年夏に沙流川で行われている。アイヌ語で「舟おろし」を意味し、古来の伝統的な技法で制作された舟に魂を入れるための進水の儀式。



写真提供：北海道開発局

沙流川の豊かさが支える地域産業

沙流川は、これまで何度も「水質が最も良好な河川」になっており、この清らかな水は多くの農水産物を育てています。

なかでも流域の平取町^{びらとりまち}はトマトの一大産地になっています。冷涼で湿度の低い栽培に適した気候のもと、糖度・酸度のバランスが良く美味しいトマトが作られています。



また、下流部の日高町では、「ししゃも」が特産の一つです。ししゃもは北海道の太平洋沿岸のみに分布する日本固有の魚であり、産卵期（10月下旬～12月上旬）に河川に遡上します。沙流川流域でも、ししゃも漁が古くから行われ、そのすだれ干しは季節の風物詩となっています。「門別ししゃも祭り」が開催される秋の日高産「ししゃも」は身が厚く、贈り物としても人気です。



ししゃも

門別ししゃも祭り 写真提供：北海道開発局



リナシティかのや前のイベント広場（肝属川本川）

水質だより

〔九州地方〕
キモツキガワ
肝属川

肝属川水系

地域の暮らしと産業を支える肝属川

肝属川は鹿児島県大隅半島中央部を流れる日本最南端の一級河川です。流域の約7割がシラスと呼ばれる火山噴火物に覆われており、笠野原台地を代表とする広大なシラス台地を形成しています。

肝属川沿いの平野部は、古来（4世紀ごろ）より稲作が盛んです。台地でも河川水を利用したかんがいが進み、野菜づくりや豚や牛の畜産業が発展しています。



肝属川本川中流部

水質改善の取組み

肝属川は、地域の産業を支える一方で、畜産や市街地からの排水などにより、長年水質汚濁が問題となっていました。

このため、関係機関で連携して水質改善に取り組む「清流ルネッサンスⅡ」が平成17年より実施されました。環境基準の達成などに課題はあるものの、汚れが目立っていた肝属川中流でアユやメダカが捕獲されるなど、少しずつ改善が進んでいるようです。

地域みんなできれいな川を

肝属川をきれいにするために、地域の方々も清掃活動や啓発活動を積極的に行っています。



肝属川クリーン作戦

なかでも、「FMかのや」は、ラジオ放送というツールを用いて、環境改善の機運を高める活動を実施しています。カワにイイことを企画して実践していく『カワイイproject』では、「出来ることから始めよう」を合言葉に、地元の学生や河川管理者・自治体、企業などの協力を得て、河川清掃やオオカナダモ（外来種）の除去活動、子供たちにも親しめる生態調査・川釣りなどの体験活動、防災学習などのイベントを定期的で開催しています。

また、水質改善とともに川の利活用も盛んになっています。肝属川上流の鹿屋市街地中心部を流れる区間では、潤いや賑わいのある水辺の交流拠点として施設や護岸が整備され、様々な活動が行われています。



1時間程度でボートが動かなくなるくらいのおオオカナダモを駆除しました！

カワイイ project 藻つとる作戦（オオカナダモの除去活動）

公式 Twitter 国土交通省 大隅河川国道事務所 @mlit_osumi より

ベルトを締め、体をフィットさせることで脱げにくくなる。

水難事故防止

ライフジャケット・オン!



だるまキャラの「山田のま」ちゃんが、ライフジャケットを着て「川田のま」に変身!



ライフジャケット・オン・スタイル

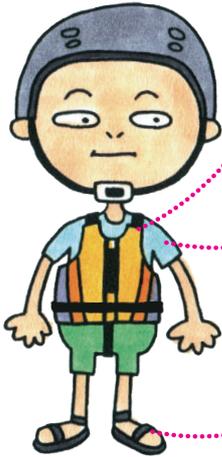
川は楽しい場所ですがリスクもあります。川に入らなくても川岸で足を滑らせて転落することもあります。川での水難事故のほとんどはライフジャケットさえ着ていれば防げた可能性があります。

川で子どもを事故に遭わせないために、そして自分も事故に遭わないように、子どもも大人もライフジャケットを着用する必要があります。

水面でも呼吸ができるようにする。

ライフジャケット

股下ベルトがある(子ども用)



体温を奪われないようにする。

乾きやすい服装(水着など)



足を守る。脱げないようにする。

運動靴など

水抜き穴がある



大切な頭を守る。
ヘルメット(あれば)

川で遊ぶ時は、まずチェック!

川の防災情報

提供
国土交通省



左の画面は、東京近郊のレーダー雨量画面です。国土交通省では川の防災情報を携帯電話向けに情報提供しています。



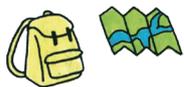
川のリアルタイムな情報をチェック!

川に着いたらレーダー雨量や水位を確認しよう!

CHECK

1 川に行く前にチェック!

- 必ず天気や川の情報をチェックしよう。急な雨で、川が増水することもあるぞ!
- バーベキューやキャンプなどでも川に近づく場合はライフジャケットを用意しよう!(大人も子ども)



2 川に着いたら安全も確認!

- 川に関する看板があれば確認しよう。
- 大人も子どももライフジャケットを着用し、子どもから目をはなさないように。(堰付近は川遊びにはケン・近づかない!)
- 川のリアルタイムな情報を確認し、上流の状況について把握しよう。

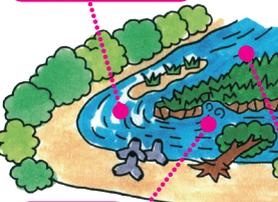


3 表面は穏やかでも水中は注意!

- 川には流れがあり、常に変化しているぞ!
- 一見穏やかに見えても、急に深くなる所や、滑りやすい所があるぞ!
- 川の事故の約90%は、穏やかな流れや浅瀬で発生しているぞ!



浅瀬に見えても...中は激流!



だからライフジャケットが必要なんだぞ!



穏やかな流れに見えても...急に深くなる!滑りやすい!



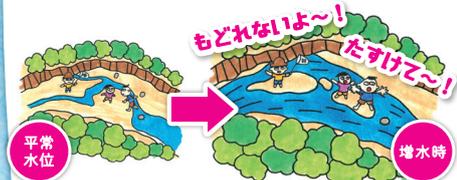
穏やかな流れの中は、渦を巻いていることも!



川底は滑り易かったり石につまづいて転びやすい

4 こんな場所は急な増水に注意!

- 河原は、増水の際は川底になるぞ。特に中州にいと、増水したら取り残されるぞ!



平常水位

増水時

川原に草が生えていない所は、増水時に水が流れていることの「証」

5 すぐに避難!

- 増水の前ぶれや、警報が鳴ったら直ちに避難しよう!すぐに水位が上がってくるぞ!
- パトロールの人たちや警察・消防、河川管理者の注意には必ず従おう。



増水の前ぶれはこんな時!

- 山鳴り(山全体がうなるような音)がする。
- 水かさが増え、濁ったり、流木、落ち葉が流れてくる。
- 雨が降っているのに、水かさが減っている。
- 腐った土・火薬のようなにおいがする。

※もし誰かが流されたら、浮くもの等を投げよう(子どもは大人を呼ぼう!)。救助する大人が事故に合わないよう、大人もライフジャケットを!



ミズベリング・プロジェクトとは

かつての賑いを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。ミズベリングは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」の造語。
水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑いを生み出すムーブメントを、つぎつぎと起こしていきます。

水辺のアクションがもっと増えれば、みんなのまちはもっともっと輝くはずだ。

なにやら、全国の水辺が、ゆるゆると元気になってきた。カフェやテラスができたり、巨大アヒルが浮かんでいたり。河川を管理する規制の緩和で、水辺のポテンシャルが一気に加速してきたみたい。

すでに元気な水辺の都市もあるけれど、まだまだ水辺をとりいれてワクワクできる環境づくり、まちづくりはできるはず。

そこでミズベリング・プロジェクト、開始。
ミズベリング(MIZBERING)とは「水辺+リング(輪)」の造語であると同時に常に現在進行形"ING"の気持ちで、水辺とまちが一体になった美しい景観を未来へ創造しつづけるソーシャル・アクションワード。

みんなのアイデアとアクションが集まれば、日本の水辺は、きっと世界がうらやむ楽しくて素敵なまちになるはずだ。

ミズベリング・プロジェクト事務局

mizbering.jp

ミズベリングの先進事例に学べ

1

「水都大阪」

「水都大阪」という、「水の都」としての大阪を復活させるプロジェクトをご存じだろうか？2011年から2020年までの長期プロジェクトで、「水都大阪 水と光のまちづくり構想」を掲げ、関西全体を元気にする「大阪の都市力の向上」を目標にしている。構想策定から10年間、水と光のまちづくりの取り組みを推進するにあたり、市民・地域・NPO・行政等との連携をさらに強化。オール大阪で水辺の利用促進に励んでいる。



©千鳥土地株式会社

2

「水の都ひろしま」

広島市はまちの中心部を6本の川が流れている「水の都」。その恵まれた水辺を都市づくりに活かすべく、戦後間もない頃から水辺を緑地として整備してきた。今では延長25kmもの緑豊かな河岸緑地となり、美しい水辺が形成されている。水辺をもっと市民に使ってもらうため、市民と国・県・市の協働で「水の都ひろしま」構想(2003年)を策定。「水辺のオープンカフェ」や「水辺のコンサート」を開催、水辺での市民活動の促進、水上交通の活性化の推進などを行い、河川空間における市民や民間事業者の多様な活用が進んでいる。



水辺のアクションをみんなで起こせば、日本のまちはもっともっと輝くはずだ。

ミズベリング、5つのアクション

1 つなごう

「水辺の未来」を考える人がつながれば、大きなムーブメントが始まるはずだ。

2 かたろう

「水辺の可能性」をみんなで探れば、思いも寄らないアイデアが浮かぶはずだ。

3 ためそう

「水辺でのチャレンジ」が増えていけば、世の中はもっと水辺に注目するはずだ。

4 つくろう

「水辺を通じたまちづくり」が進めば、日本のまちは世界がうらやむまちになるはずだ。

5 育てよう

「水辺での暮らし」をみんなで育てていけば、人生はもっと豊かになるはずだ。